

(竜王南小) 学校 学校関係者評価書

令和 4年 2月22日 (火)
(竜王南小学校) 学校関係者評価委員会作成

第1回学校関係者評価委員会は、新型コロナウイルス感染状況の拡大の為、書面にて実施。

資料発送日：令和 4年 2月 4日 (金)

資料回収日：令和 4年 2月15日 (火)

(学校関係者評価委員)

学校評議員

鶴田 重雄 梶原 照夫 米山 壽浩

保坂 秀人

PTA役員 会長

石井 仁実

副会長

若狭 万穂 磯部 陽呼 丸山 絵里奈

学校側

校長

長谷川 佳代

教頭

飯塚 正規

教務主任兼

生徒指導主任 松橋勝

I 学校側から文書提案された内容

- (1) 教職員の自己評価及び改善策
- (2) 児童・保護者アンケート結果

II 学校関係者評価委員のアンケート回答から出された主な内容

- (1) 自己評価(教職員・児童・保護者)の結果から
- (2) その他

<学校関係者評価書>

I 全体評価

本年度もコロナ禍の現状を踏まえ、PDCAサイクルを活かしたマネジメントにより、組織として対応を考えて取り組んできた。そのことにより、昨年度よりも着実に教育水準は高まってきている。教育活動全般にわたり、高い自己評価の数値からも、学校教育目標の実現に向けて、連携・協働して取り組んでいると考える。

教職員の自己評価において、39問中、28設問で肯定的評価(A・B)が100%となったことから、昨年度以上に教職員が、学校経営方針に従い共通理解を得て、教育活動に取り組んでいると考えられる。一方、課題としては、ICT活用のさらなる充実・外国語活動への不安の払拭・保護者・地域に向けた情報発信の工夫が挙げられる。今後は、課題解決に向けてさらなる努力をしていきたい。

児童アンケート及び保護者アンケートに関しては、昨年に比べて肯定的評価が高い水準を維持している。児童アンケートでは、「学校の授業は楽しいですか。」が昨年度より4.9%、「困ったことがあったら、相談できる先生はいますか。」が昨年度より8.2%上昇した。これを受けて、PTA役員から、「コロナ禍ではあったが、肯定的評価の数値が上がったことに保護者としてとても安心できる。」との回答があった。今年度も、コロナ禍により、PTA活動は多くの制限を受けた。オンラインの活用やHPの充実、学校便り等で情報を発信していく等、学校と保護者との交流や情報公開の在り方を考えていきたい。

II 特徴

- 教職員自己評価からは、学校経営・運営に関して、昨年度より危機管理に関するA評価の数値が高まった。これには、PTA役員からも高く評価するという回答があった。
- ICT活用については、否定的評価(C・D)が13.6%であった。これは、教職員間でのICT活用に関する不安が大きいためだと考えられる。しかし、PTA役員からは、「児童が端末パソコンを与えられ、分散登校におけるオンライン授業導入への学校側の努力に感謝する。」という回答があった。
- 保護者アンケートにおける家庭での挨拶に関する発問では、肯定的な数値が昨年度より8.2%上昇した。また、児童アンケートでは、清掃活動についての取り組みは、98%が肯定的評価であった。これらのことから、児童会活動で取り組んでいる挨拶運動・無言清掃などの活動が児童の意識の向上に繋がっていると考えられる。

III 今後の課題として意識されたいこと

- PTA活動への保護者の参加率が低いという結果には、PTA役員からもやむを得ないという回答が複数あった。また、「オンラインシステムの活用など企画の余地があり、授業参観が出来ない時だからこそ、ホームページの発信をこまめに行う必要がある。」という指摘もあった。
- キャリア教育に関して、「小学生の段階での働きかけは有効と考える。なりたい自分とそうなるために何をするのか、どのように取り組み、何が不足しているのかを考えるきっかけが養われると社会に出た時にも役に立つ。」という指摘があった。

※特記事項

- 学校評議員から、教職員に対して、心と体の健康への配慮があった。「学校評価の項目にはないが、“子どものために”の前に教職員が元気に生き生き活躍できる場であってほしい。その為にも、学校評価の取り組みも含め、雑務を減らしていく見直しを」や「東日本大震災の教訓である“自分の命は自分で守る”という言葉は、今も通じる考え方であり、指導に活かしてほしい。」などの意見もあった。
- PTA役員からは、「地区の行事がコロナ禍で一切中止という現実がもどかしい。また、3学期の分散登校時に児童館で4年生以上も預かっていただけなことは、2学期は預かっていただけなかつたので改善されたと感じた。」との意見があった。